



## 東北の 7 月 降水量は過去最多 日照時間は過去最少

東北地方の 7 月の月降水量は平年の約 2 倍となり、1946 年の統計開始以降の記録を更新しました。月間日照時間は平年の約半分にとどまり、1946 年の統計開始以降、最少の記録と並びました。

梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が続き、7 月の月降水量は東北地方全体で平年比 201%となり、1946 年の統計開始以降で最も多くなりました（これまでの最多は 2013 年の 182%）。7 月の月間日照時間は、東北地方全体で平年比 55%にとどまり、1946 年の統計開始以降で最も少ない記録と並びました（これまでの最少である 2006 年、2003 年とタイ記録）。

月降水量と月間日照時間は東北地方にある 17 地点の気象台と特別地域気象観測所の観測値から算出しています。

詳しくは、下記 URL より、「2020 年 7 月の東北地方の天候」をご覧ください。

仙台管区気象台ホームページ 「2020 年 7 月の東北地方の天候」

[https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200803\\_07TukiGaikyou.pdf](https://www.jma-net.go.jp/sendai/kouhou/houdou/20/20200803_07TukiGaikyou.pdf)



問合せ先：仙台管区気象台気象防災部 地球環境・海洋課

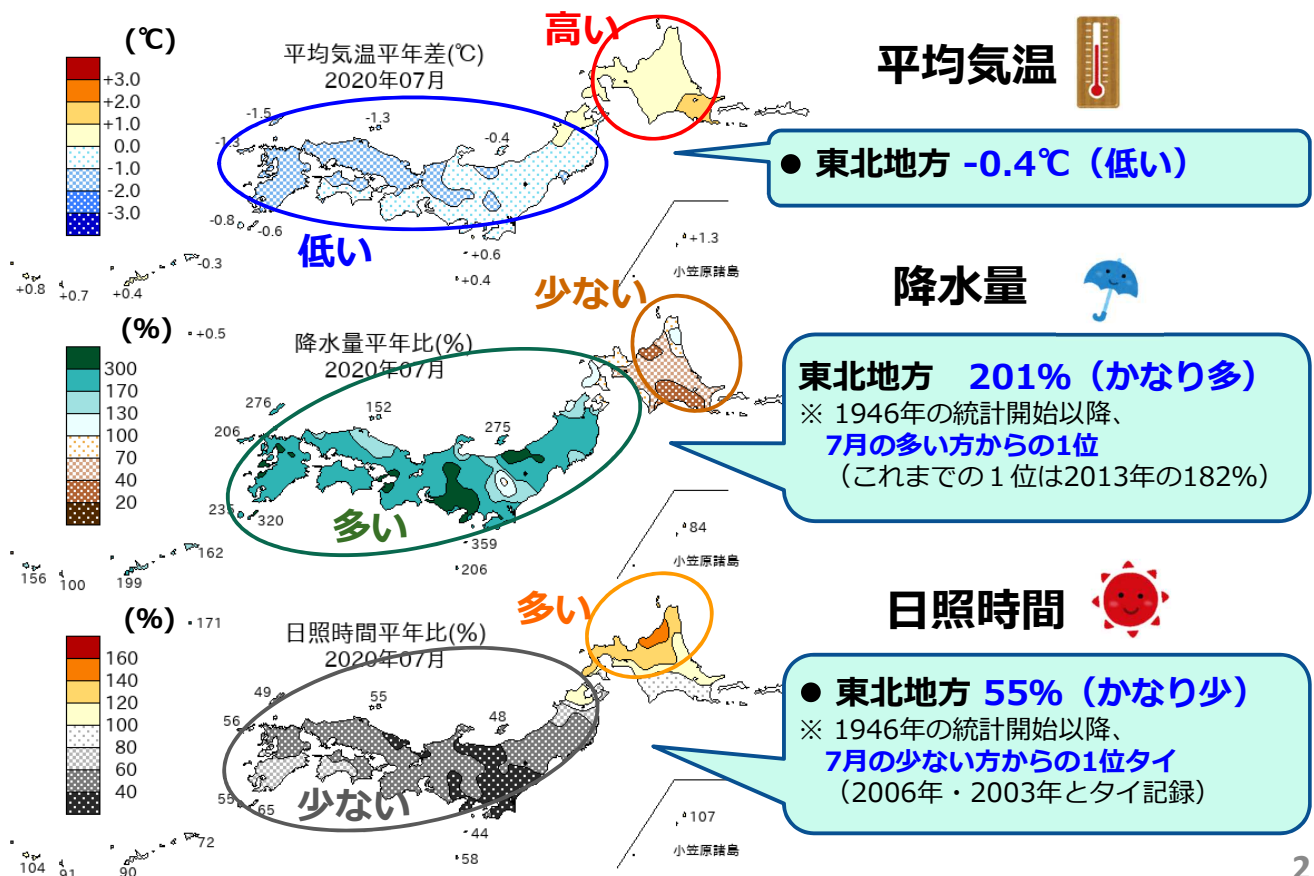
担当：金濱・小川 電話：022-297-8177 FAX：022-291-8110

# 東北地方 2020年7月の天候 〈記録的な多雨・日照不足〉

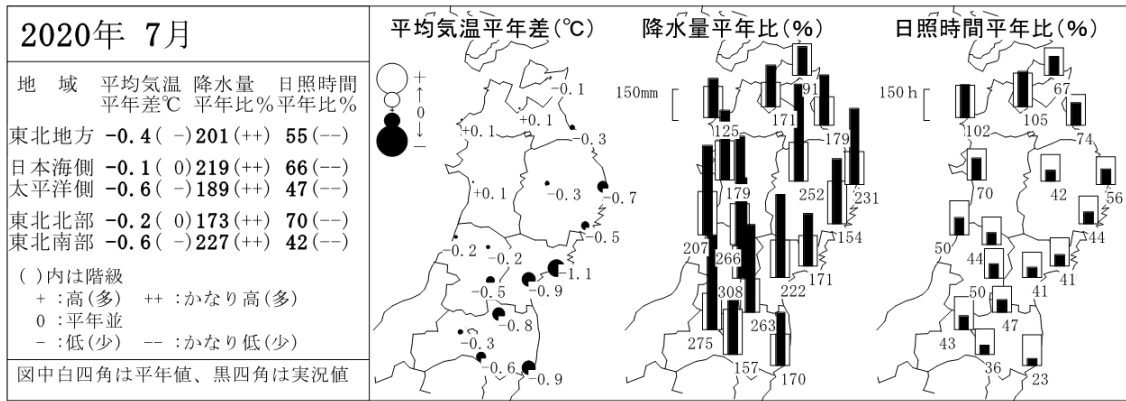
2020年8月3日

気象防災部 地球環境・海洋課

## 7月の気温・降水量・日照（平年との比較）



# 7月の気温・降水量・日照（地点別）



7月降水量多い方からの順位更新 タイ記録は「=」で表す。

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	若松	483.0	275	423.1 (1956)	1954	175.8
	盛岡	467.0	252	461.0 (2013)	1924	185.5
	山形	483.5	308	386.0 (2013)	1889	157.0
	福島	421.5	263	350.8 (1941)	1889	160.4
2	酒田	432.0	207	785.5 (2013)	1937	209.0
	仙台	397.5	222	444.5 (1980)	1927	179.4
3	新庄	525.0	266	577.0 (2013)	1958	197.1
	宮古	366.5	231	408.6 (1911)	1883	159.0

若松・盛岡・山形は年間を通して月降水量の多い方の歴代1位

山形：28日に日降水量155.5mm  
7月の日降水量の歴代1位  
年間を通しての1位は1913/8/27の217.6mm

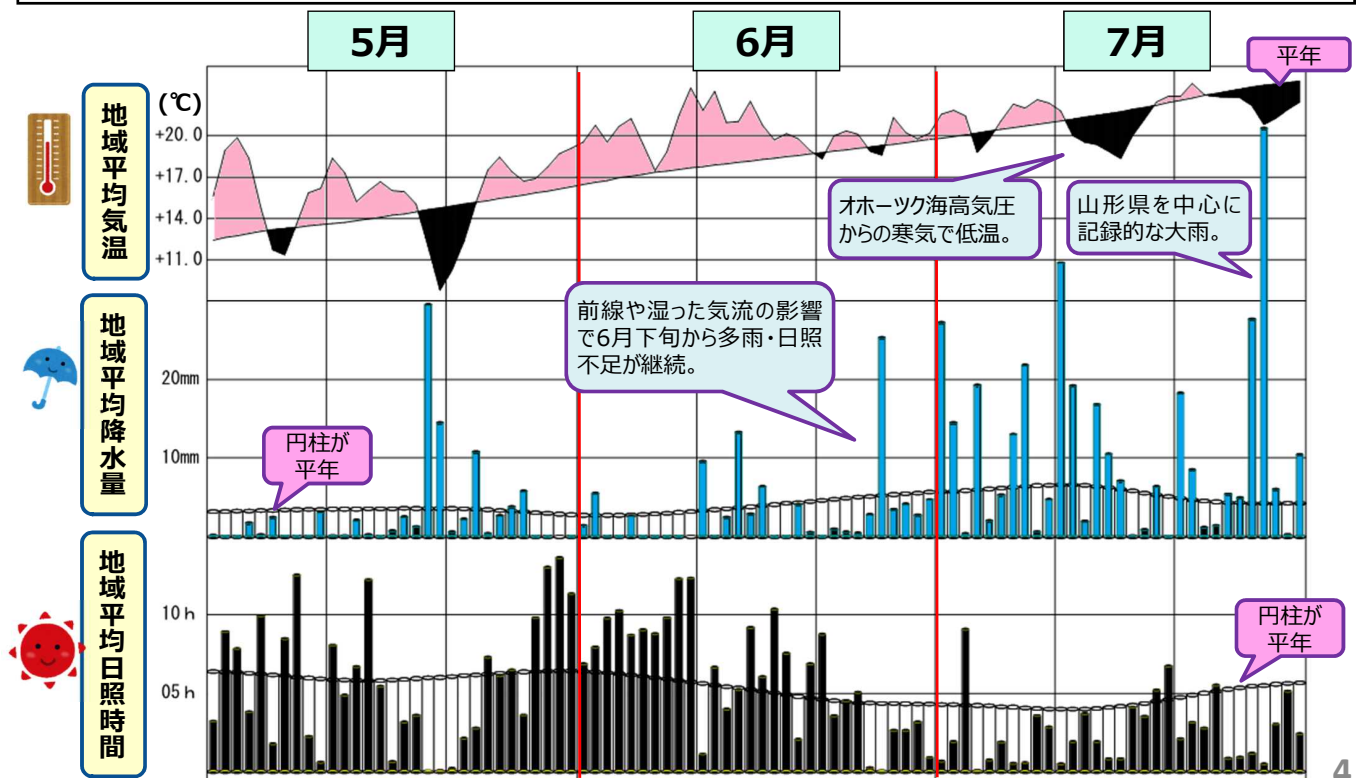
7月日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	若松	68.0	43	86.5 (2006)	1954	159.9
	盛岡	54.3	42	64.1 (2006)	1924	128.5
	石巻	57.1	41	59.7 (1941)	1899	138.0
	小名浜	33.5	23	47.9 (1910)	1910	147.9
2	大船渡	58.1	44	55.1 (2006)	1964	132.7
	新庄	58.0	44	58.1 (2006)	1958	134.1
	酒田	82.5	50	72.4 (2006)	1937	164.0
	山形	71.9	50	69.5 (1957)	1895	143.7
	白河	43.8	36	43.0 (1988)	1940	121.9
3	仙台	49.5	41	31.9 (1988)	1927	119.5

盛岡・石巻・小名浜は年間を通して月間日照時間の少ない方の歴代1位

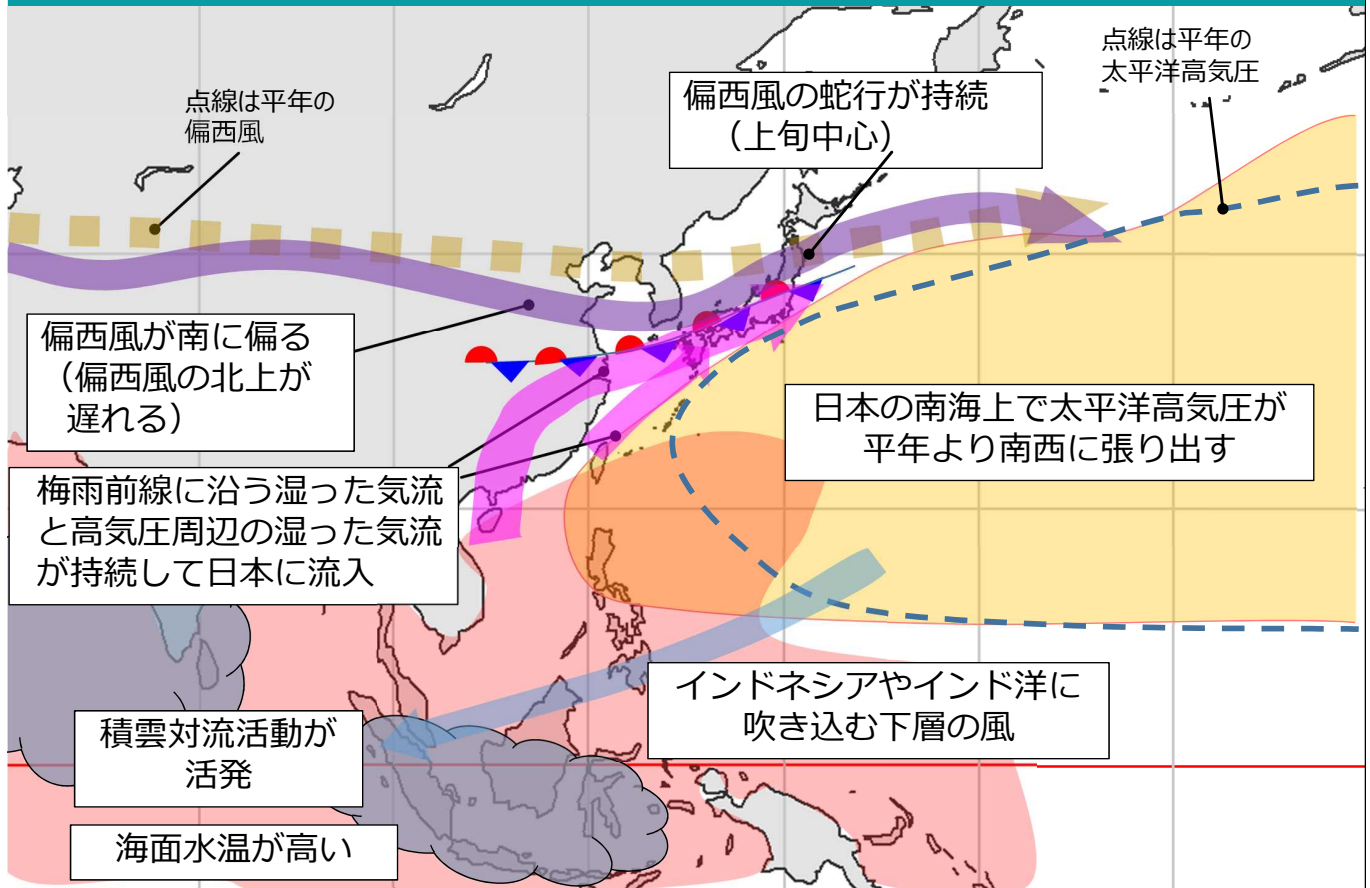
## 5～7月の気温・降水量・日照の推移（東北地方）

- 7月上旬は高温、中旬と下旬は日射が少なかったことや寒気の影響で低温。
- 6月下旬から7月末にかけて曇雨天続く。梅雨前線が本州付近に停滞。

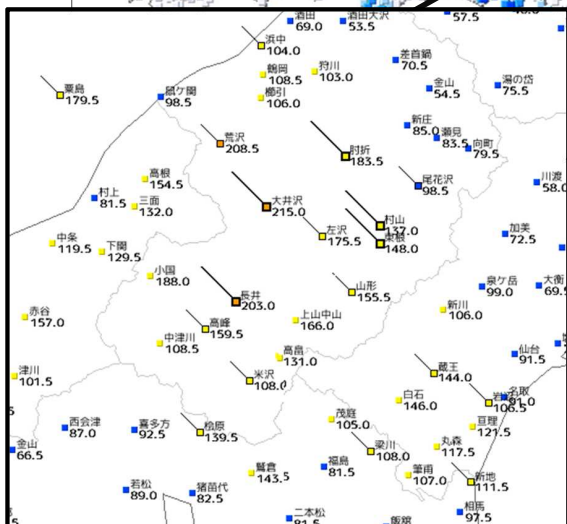
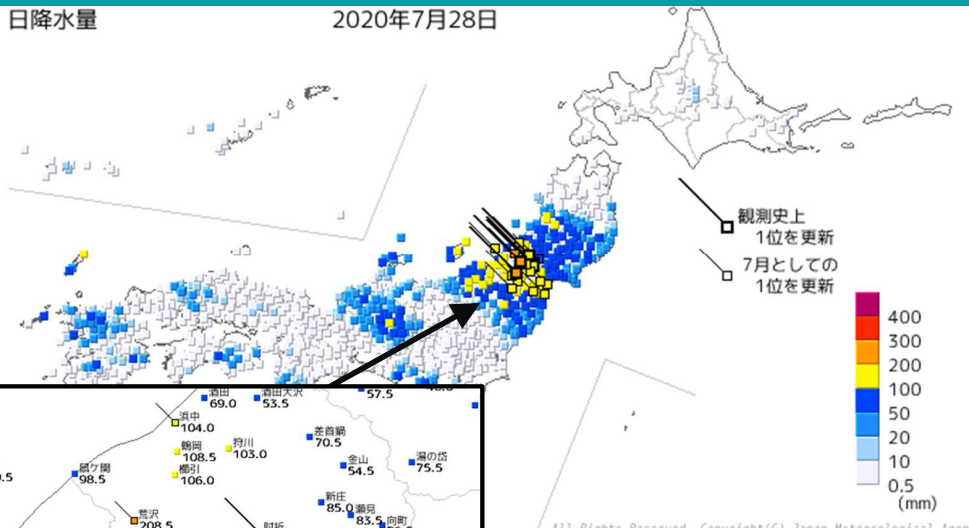


# 2020年7月の大気の流れ

## ～東北地方から西日本の記録的多雨・寡照～



# (速報値) 7月28日の記録的な大雨



山形県の5地点で年間を通じた日降水量の歴代1位となった

### 日降水量

都道府県	市町村	地点	更新した値		統計開始年	備考
			mm	一昨日までの1位の値 mm 年月日		
山形県	最上郡大蔵村	肘折(セジオリ)	183.5	155.5 2019/10/12	1976年	
山形県	村山市	村山(ムラヤマ)	137.0	86.5 2011/09/20	2002年	
山形県	東根市	東根(ヒガシネ)	148.0	80.5 2016/08/17	2003年	
山形県	西村山郡西川町	大井沢(オオイスワ)	215.0	212.0 2013/07/18	1978年	
山形県	長井市	長井(ナガイ)	208.0	183.5 2014/07/09	1976年	

## 2020年7月の東北地方の天候

○東北地方の月降水量は、7月として1946年以降最も多かった。  
○東北地方の月間日照時間は、7月として1946年以降の少ない方からの1位タイを記録した。

### 概況

梅雨前線や低気圧の影響で曇りや雨の日が続き、大雨となった日も多く、記録的な多雨及び日照不足となった。月降水量は、東北地方で平年比201%と、7月としては1946年以降で1位の多雨となった（これまでの1位は2013年の182%）。地点別の月降水量は、盛岡、山形、若松では年間を通して多い方からの1位<sup>※1</sup>を記録し、福島では7月として多い方からの1位<sup>※1</sup>を記録した。また、28日の日降水量は、山形で155.5mmとなり、7月として多い方からの1位<sup>※1</sup>を記録した。

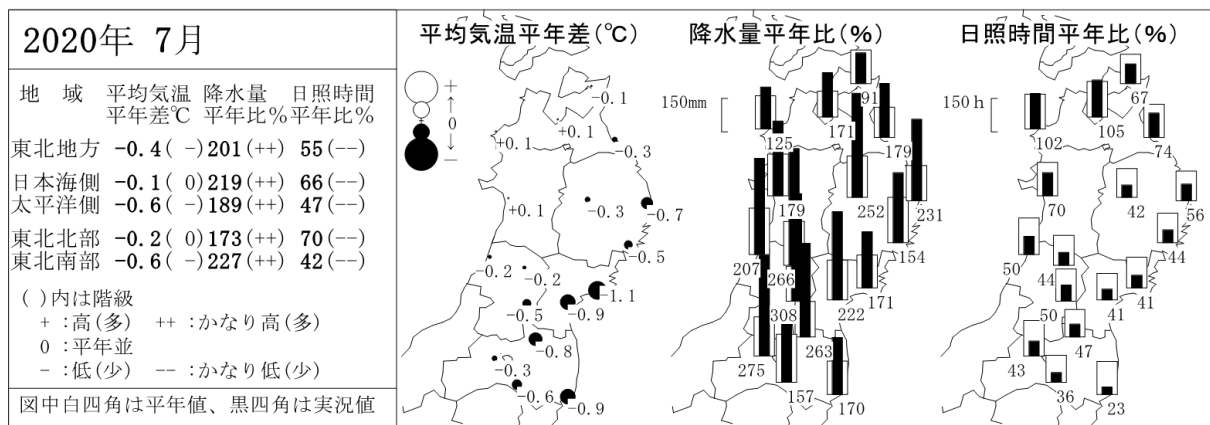
梅雨前線の影響により、12日は岩手県で、21日は福島県で日降水量が100mmを超えた所があった。27日から28日にかけては東北地方に梅雨前線が停滞し、活動が活発になったため、27日は秋田県と岩手県で日降水量が100mmを超えた所があった。特に28日は東南北部を中心に日降水量が100mmを超えた所が多く、山形県では、西川町大井沢で日降水量が215.0mmなど、記録的な大雨となった所があり、最上川の氾濫など大きな被害が発生した。31日は低気圧の影響により、福島県で日降水量が100mmを超えた所があった。

月間日照時間は東北地方でかなり少なくなり、平年比55%と7月としては1946年以降で少ない方からの1位タイを記録した（これまでの1位である2006年、2003年とタイ記録）。地点別の月間日照時間は、盛岡、石巻、小名浜で年間を通して少ない方からの1位<sup>※1</sup>を記録し、若松では7月として少ない方からの1位<sup>※1</sup>を記録した。

上旬の中頃と中旬、下旬の中頃以降は、曇りや雨の日が多く日射が少なかったことやオホーツク海高気圧からの冷たく湿った東よりの風の影響で、気温が平年を下回った。このため、東北地方の月平均気温は平年差-0.4℃と低く、7月としては2007年以来の低温となった。

（※1：統計開始以降の順位を示す）

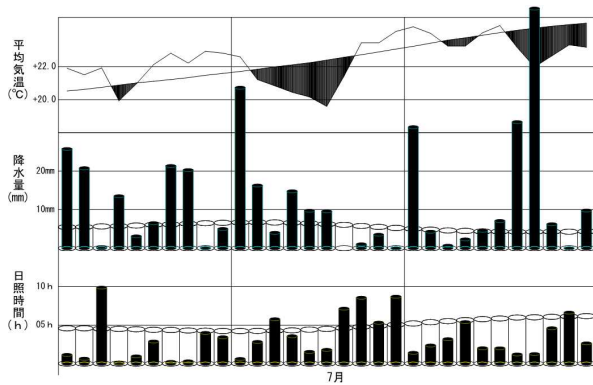
月平均気温は東北日本海側で平年並、東北太平洋側で低い。月降水量はかなり多い。月間日照時間はかなり少ない。



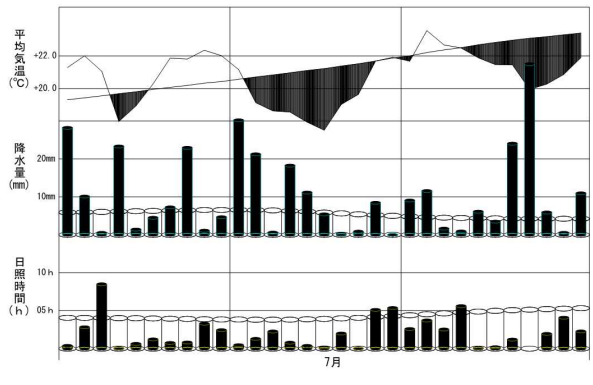
平均気温の平年差、降水量・日照時間の平年比の分布

### 降水量、日照時間平年比分布図の凡例について

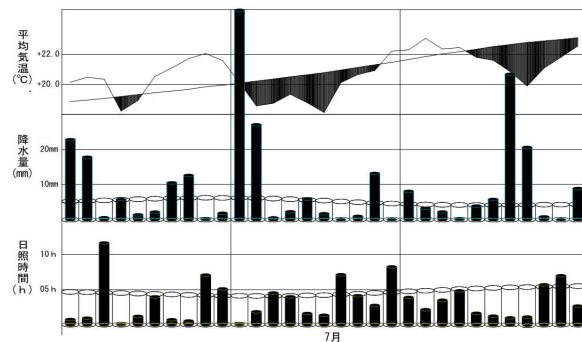
降水量、日照時間平年比分布図の各地点の白四角と黒四角はそれぞれ平年値と実況値です。各分布図の左上のスケール(高さ)は、降水量(mm)、日照時間(h)を表します。各地点の数字は平年比(%)です。



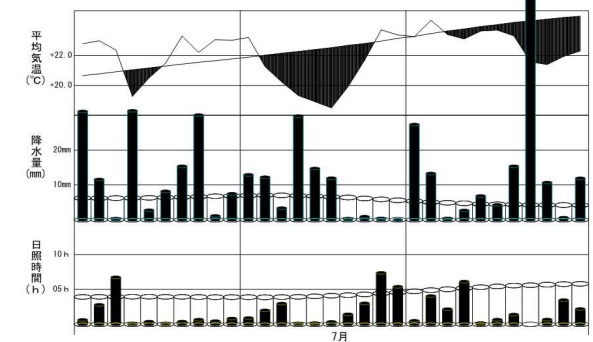
東北日本海側



東北太平洋側



東北北部



東北南部

### 平均気温、降水量、日照時間の経過

左上は東北日本海側、右上は東北太平洋側、左下は東北北部、右下は東北南部の気象官署の観測値と平年値の地域平均。気温は折れ線が観測値、実線が平年値で、陰影は平年値より低いことを示す。降水量と日照時間は黒円柱が観測値、白円柱が平年値。

### 注意事項

気候統計値は、東北地方にある17地点の気象台、特別地域気象観測所の観測値より求めています(速報値)。

細分地域を東北日本海側は青森県津軽・秋田県・山形県・福島県会津、東北太平洋側は青森県下北・三八上北・岩手県・宮城県・福島県中通り・浜通り、東北北部は青森県・秋田県・岩手県、東北南部は宮城県・山形県・福島県としています。

気温の高い・低い、降水量、日照時間、降雪の深さ合計の多い・少ないは、特にことわらない限り平年と比較した階級を表します。平年値の統計期間は1981～2010年です。階級区分は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めています。また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には「かなり高い(多い)」「かなり低い(少ない)」と表現します。

## 2020年7月の極値・順位の更新 (順位の更新はタイ記録も含んでいる。タイ記録は「=」で表す。)

### 月降水量多い方からの順位更新

順位	地点名	降水量 mm	平年比 %	これまでの最大 mm (西暦年)	開始年	平年値 mm
1	若松	483.0	275	423.1 (1956)	1954	175.8
	盛岡	467.0	252	461.0 (2013)	1924	185.5
	山形	483.5	308	386.0 (2013)	1889	157.0
	福島	421.5	263	350.8 (1941)	1889	160.4
2	酒田	432.0	207	785.5 (2013)	1937	209.0
	仙台	397.5	222	444.5 (1980)	1927	179.4
3	新庄	525.0	266	577.0 (2013)	1958	197.1
	宮古	366.5	231	408.6 (1911)	1883	159.0

### 月間日照時間少ない方からの順位更新

順位	地点名	日照時間 h	平年比 %	これまでの最小 h (西暦年)	開始年	平年値 h
1	若松	68.0	43	86.5 (2006)	1954	159.9
	盛岡	54.3	42	64.1 (2006)	1924	128.5
	石巻	57.1	41	59.7 (1941)	1899	138.0
	小名浜	33.5	23	47.9 (1910)	1910	147.9
2	大船渡	58.1	44	55.1 (2006)	1964	132.7
	新庄	58.6	44	58.1 (2006)	1958	134.1
	酒田	82.5	50	72.4 (2006)	1937	164.0
	山形	71.9	50	69.5 (1957)	1895	143.7
	白河	43.8	36	43.0 (1988)	1940	121.9
3	仙台	49.5	41	31.9 (1988)	1927	119.5

月平均気温高い方から、月平均気温低い方から、月降水量少ない方から、月間日照時間多い方からの順位更新の3位以内はありません。

(注) 値の横に「=」がある場合には、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等、統計に用いなかった値が含まれている(資料不足値)。順位は更新順位以上になることは確実であるが、統計値の使用に際しては気候表に記載した統計日数を参照されたい。  
平年値とは1981～2010年の30年間の値を平均したものである。

## 2020年7月の月気候表

地点名	平均気温(平年差) 階級		降水量(平年比) 階級		降水日数 ≥1mm	日照時間(平年比) 階級	
	(°C)	(°C)	(mm)	(%)		(h)	(%)
青森	21.2	(+0.1) ○	200.0	(171) +	11	167.3	(105) ○
深浦	21.4	(+0.1) ○	188.5	(125) +	15	159.7	(102) ○
むつ	19.4	(-0.1) ○	138.5	(91) ○	10	88.9	(67) -*
八戸	19.8	(-0.3) ○	243.5	(179) +	18	110.5	(74) -
秋田	23.0	(+0.1) ○	337.0	(179) +*	19	104.7	(70) -
盛岡	21.5	(-0.3) ○	467.0	(252) +*	22	54.3	(42) -*
大船渡	20.5	(-0.5) -	314.0	(154) +	22	58.1	(44) -*
宮古	19.1	(-0.7) -	366.5	(231) +*	21	74.5	(56) -
仙台	21.3	(-0.9) -	397.5	(222) +*	24	49.5	(41) -*
石巻	20.3	(-1.1) -	253.0	(171) +*	20	57.1	(41) -*
山形	22.8	(-0.5) -	483.5	(308) +*	22	71.9	(50) -*
新庄	22.2	(-0.2) -	525.0	(266) +*	22	58.6	(44) -*
酒田	23.1	(-0.2) ○	432.0	(207) +*	20	82.5	(50) -*
福島	22.8	(-0.8) -	421.5	(263) +*	22	58.2	(47) -*
若松	23.2	(-0.3) ○	483.0	(275) +*	20	68.0	(43) -*
白河	21.6	(-0.6) -	339.0	(157) +	25	43.8	(36) -*
小名浜	21.1	(-0.9) -	255.5	(170) +	21	33.5	(23) -*

- (注) 1. 平年値は1981～2010年の資料から求めた。  
 2. 「階級」の記号の意味は以下のとおり。  
     + : 高い(多い)      ○ : 平年並      - : 低い(少ない)  
     各階級の区分値は、1981～2010年における30年間の観測値をもとに、これらが等しい割合で各階級に振り分けられる(各階級が10個ずつになる)ように決めた。  
     また、値が1981～2010年の観測値の上位または下位10%に相当する場合には階級の「+」に\*を付加した。この場合には  
         かなり高い(多い)                      かなり低い(少ない)  
     と表現できる。  
 3. 値の横に「) や ]」がある場合は、月別値を求める際に使用したデータ(日別値)に欠測等が含まれていることを示す。)付きの値(準正常値)は通常のものと同様に扱うことができる。]  
 ]付きの値(資料不足値)については、統計に用いる観測資料数が不足しているため、値の下に記載した統計日数(統計に用いた、品質が十分な日別値の数)を参考にするとともに、階級についても値と同様の品質であることに留意して使用されたい。  
     なお、日別値がすべて欠測のため値が求められない場合は「×」とした。

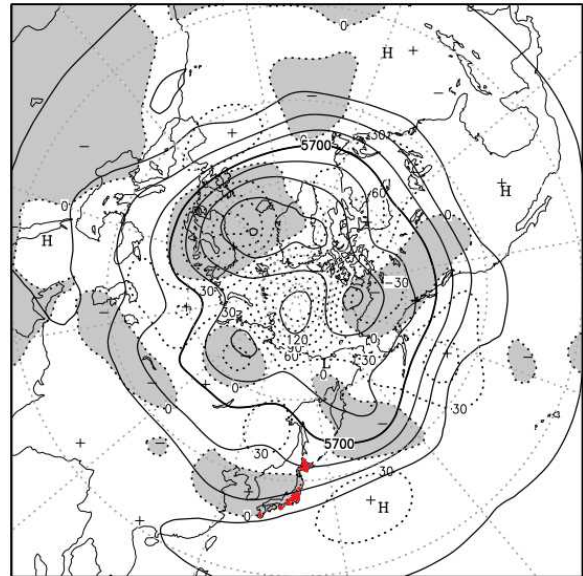


## 循環場の特徴

500hPa 高度は、日本の東海上から南海上にかけて平年より高く、亜熱帯高気圧の勢力が強かった一方、朝鮮半島付近には気圧の谷があつて、本州付近は西谷の場となつていた。

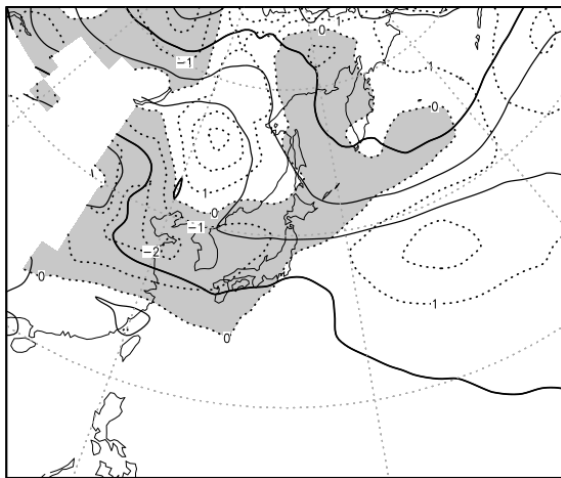
850hPa 気温は、日本付近は平年より低い。

海面気圧は、南シナ海から日本の南海上で高気圧が強い一方、本州付近への張り出しは弱かつた。華南から本州付近は周辺より気圧が低くなつており、梅雨前線が本州付近に停滞したことに対応している。また、千島近海を中心に平年より気圧が高く、北日本はオホーツク海高気圧の影響を受ける時期があつた。



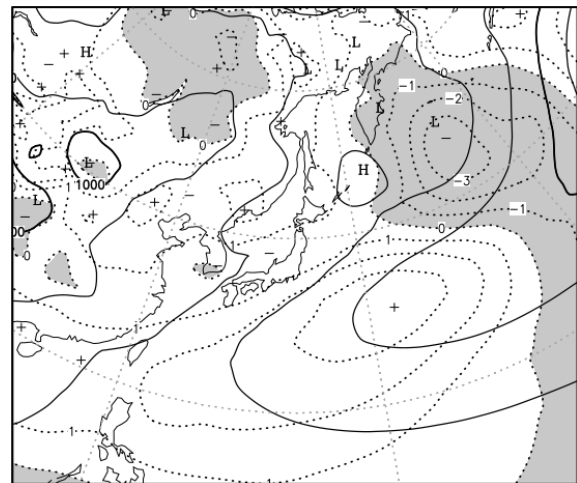
2020年7月の平均500hPa高度

実線は高度(m)、間隔60m。点線は偏差(m)、間隔30m。陰影は負偏差で一般に寒気に対応し、白抜きは正偏差で一般に暖気に対応する。



2020年7月の平均850hPa気温

実線は気温(°C)、間隔3°C。点線は偏差(°C)、間隔1°C。陰影は負偏差で寒気に対応し、白抜きは正偏差で暖気に対応する。



2020年7月の平均海面気圧

実線は海面気圧(hPa)、間隔4hPa。点線は偏差(hPa)、間隔1hPa。陰影は負偏差、白抜きは正偏差。